先軍思想問答

先軍思想問答

朝鮮・平壌
外国文出版社
チュチェ101(2012)

1．先軍思想は一言ではどう表現できるのか？

先軍思想とは一口に言って、軍事先行の原則に立ち、軍隊を主力にして、革命闘争と建設事業を進めていくという思想である。

2．先軍思想はどのようにして創始されたのか？

先軍思想は社会主義朝鮮の始祖金日成（キムイルソン）主席(1912-1994年)によって創始された。

日本の軍事的占領(1905-1945 年)に抗して、1920 年代の半ば祖国解放のたたかいに踏み出した金日成主席は、革命偉業の勝利も、国家･民族の自主独立と繁栄も銃の上にあるという真理を発見した。

金日成主席は、1930 年 6 月、中国卡倫における共青及び反帝青年同盟の幹部会議で、先軍の原理を踏まえて抗日武装闘争路線をうちだしたが、この路線が先軍思想の創始を告げるものとなったのである。

3. 先軍思想創始の社会的･歴史的条件はどのようなものだったのか？

先軍思想はまず、帝国主義者の植民地支配と収奪の策動が一段と悪辣を極めた時代的状況の反映として生まれた。

金日成主席は、帝国主義者の苛酷な植民地支配･収奪とこれに抗する人民大衆のきびしいたたかいから当代における銃の持つ価値と威力を見きわめ、銃重視思想をうちだしたのであった。

先軍思想は他方では、反日民族解放闘争が朝鮮革命の基本的な課題となっていた当時の社会的･歴史的条件を反映して生まれたのである。

金日成主席は、朝鮮人民の民族解放闘争を武力で弾圧する日本帝国主義に抗して国家･民族の自主権を取り戻すためには朝鮮人民自身が武装してたたかうほかないという革命闘争の要請を踏まえて、民族解放闘争の突破口を開く鍵を銃に求め、銃をもって祖国の独立を成就しひきつづき革命をおし進めようという先軍思想を創始したのであった。

4. 先軍思想の始原はどこにあるのか？

先軍思想の始原は、尊父金亨稷（キムヒョンジク）先生が金日成主席にのこした 2 挺の拳銃と、主席によって 1926 年 10 月に立ち上げられた朝鮮最初の革命組織･打倒帝国主義同盟（「トゥ･ドゥ」）の綱領とにある。

2 挺の拳銃には、祖国独立の最高形態は組織的な武装闘争にあるという、金亨稷先生の遠大な思想が宿されている。また、「トゥ･ドゥ」の綱領には、武力をもって日本帝国主義を打倒して国の独立を達成し、朝鮮に社会主義を建設すること、ひいては全世界的に反帝自主偉業を成就しようという思想がこもっている。

5. 先軍思想の根元は何か？

先軍思想の根元はチュチェ思想である。

チュチェ思想には、人民大衆の自主性ならびに国家･民族の自主性を擁護し実現するという原理、革命の主体を強化しその役割を高めるという原理、革命闘争と建設事業では人びとの思想を基本にとらえていくという原理が明らかにされている。

先軍思想はこうしたチュチェ思想の原理に根元をおいているのである。

6. 先軍思想はチュチェ思想の要求をどのように具現しているのか？

先軍思想は、人民大衆の自主性を実現するというチュチェ思想の根本的要求にもとづいて、銃を重視し、徹頭徹尾銃に依拠して人民大衆の自主偉業を完成することを根本的な理念としている。

また、革命の主体にかんするチュチェ思想の原理を踏まえて、軍隊を中核とし鑑として革命の主体をゆるぎなく固め、その役割をこのうえなく高めていくと強調している。

さらに、思想論の具現を主張するチュチェ思想の指導的原則に立脚して、国家･民族の運命を守り、全般的社会主義建設をおし進めていく基本的な推進力を革命的軍人精神に求めている。

7. 金日成主席による先軍指導はいつ始まったのか？

金日成主席は、1932 年 4 月 25 日、中国安図県

小沙河において朝鮮人民の最初の革命的武力集団である反日人民遊撃隊を創建し、反日武装闘争に乗り出すことで先軍指導を開始した。

このように、反日人民遊撃隊の創建は、先軍革命の中核をととのえ、銃をもって革命をおし進めるという銃重視思想を革命実践に具現する嚆矢となったのである。

8. 金日成主席の先軍指導はどう具現されたのか？

金日成主席は、銃重視思想と国の具体的実情を踏まえてまず、軍隊の建設を進めた。

主席は、抗日武装闘争を進めていくなかで反日人民遊撃隊を朝鮮人民革命軍に改編し、朝鮮解放（1945 年 8 月 15 日）の歴史的偉業が成就すると、ひきつづき党と国家の建設に着手したのであった。

主席は、解放後の国づくりでも錯綜した国情を前に、朝鮮人民革命軍を正規軍に発展させるなど、国防力の強化に最大の力を傾けた。軍事を国事中の第一国事とした主席は、経済建設と国防建設の並進路線をはじめとする軍事重視の思

想・路線を具現しつつ、社会主義の建設を一貫して軍事先行の原則をもっておし進めたのである。

9. 先軍思想はどのように深め、発展させられたのか？

先軍思想は金正日（キムジョンイル）総書記によって深め、発展させられた。

総書記は金日成主席の銃重視の思想・路線を先軍思想として定式化し、深奥な諸原理と命題をもってこれを全一的に体系化した。こうして先軍思想は、チュチェ思想とともに人類自主偉業の偉大な指導思想として広く公認されることになったのである。

10. 金正日総書記の先軍指導はいつから始まったのか？

金正日総書記は、1960 年 8 月 25 日、朝鮮人民軍近衛ソウル柳京洙（リュギョンス）第 105 戦車師団を現地指導することで先軍指導を開始したのである。

つまりこの現地指導は、軍隊の強化を通して国家と人民、社会主義を防衛し全般的な社会主義建設を力強くおし進めていく、総書記の先軍

指導の出発点になったのであった。

11. 金正日総書記の先軍政治はいつから始まったのか？

金正日総書記の先軍政治は、1960年代末に開始された。

総書記は、1969年1月、朝鮮人民軍党委員会第4期第4回拡大総会で、人民軍内に党の指導体系を確立する措置を講じ、アメリカの挑発で朝鮮半島に一触即発の危機がかもし出された1968年1月の米軍情報収集艦「プエブロ」号拿捕事件と翌年4月の「EC － 121」大型偵察機撃墜事件をはじめ、さまざまの契機に、軍の作戦を自ら担当指揮するなど、人民軍の強化に大きな力を傾け、これを土台にして党と国家の全般的活動を指導していったのである。

12. 金正日総書記による先軍政治の全面的確立の時期はいつのことか？

金正日総書記は1990年代の中ごろに先軍政治を全面的に確立した。

20世紀末、ソ連・東欧社会主義の挫折後、帝

国主義連合勢力の極度の孤立・圧殺策動によって、朝鮮は最悪の試練に直面した。これに対処して、1995年1月1日、総書記は「姫小松陣地」と呼ばれている朝鮮人民軍の某区分隊を現地指導し、以後、先軍の旗を一段と高くかかげて諸部隊の視察をやむことなく続けるなど、何よりも国防力の強化に努め、こうした努力にもとづいて社会主義の全般にわたる先軍政治を確立したのである。

13. 先軍思想の基本的な構成体系はどのようなものか？

先軍思想は、先軍革命原理、先軍革命理論、先軍政治方式の三つを基本的な構成体系としている。

14. 先軍革命原理では、何が明らかにされているのか？

先軍革命原理では、銃哲学と先軍の原理が明らかにされている。先軍思想の全般的体系と内容の基礎には、銃哲学と先軍の原理がすえられている。

15. 銃哲学とはどういうことか？

銃哲学は、革命は銃によって開かれ、前進し、完成するということを解明している。

銃哲学は、革命運動は銃によって発生し発展するということの一般的合法則性を明らかにした原理である。

16. 革命は銃によって開かれ、前進し、完成するというのはどういうことか？

革命は銃によって開かれ、前進し、完成するというのは、人民大衆の自主性を実現する革命闘争は自らの強力な革命武力つまり銃に依拠せずには起きも勝利することもできず、勝利した革命を守り完成させていくこともできないということである。

17. 銃哲学の本質的内容は何か？

銃哲学の本質的内容は、帝国主義をはじめあらゆる反革命勢力との力の対決における決定的勝利の基本的要因は銃にあるということである。

帝国主義をはじめ反革命勢力とのたたかい

は、銃と銃との対決である。したがって革命偉業完成のもっとも強力な手段を銃に求めるのは当然なことである。

銃哲学の本質的内容には、社会主義建設においても銃（軍隊）が決定的役割を果たすということが含まれている。

銃を手にした軍隊の中核的・主導的な役割は、全社会構成員の思想・精神と闘争気風に決定的な転換をもたらし、経済建設や文化建設など社会主義建設の全般的分野に飛躍と革新を起こす重要な要因である。

18．先軍の原理とはどういうことか？

先軍の原理は、軍隊はすなわち党であり、国家であり、人民であるということである。

先軍の原理は、自主性をめざす人民大衆のたたかいにおいて、軍隊が占める地位と役割を、他の社会的・政治的集団との関わりあいを通して解明した原理である。

19．軍隊はすなわち党であり、国家であり、人民であるというのはどういうことか？

軍隊はすなわち党であり、国家であり、人民であるというのは、軍隊の運命はほかならぬ党と国家と人民の運命だということである。つまり、軍隊が強力なら党も国家も人民も強くなれるが、軍隊が弱いと党も国家も人民も無気力になるということである。

20. 先軍の原理の本質的内容はどのようなものか？

先軍の原理の本質的内容はまず、軍隊はすなわち革命的党だということである。

軍隊を掌握できていない党は無力であり、党の不敗性は銃によって支えられるのである。他方、党の指導を受けない軍隊は革命軍隊としての使命を全うできない。つまり、党と軍隊は一つの運命共同体だといえるのである。

先軍の原理の本質的内容はつぎに、軍隊はすなわち社会主義国家だということである。

革命家は自らの強力な軍隊を持たずには、反革命勢力とのたたかいで勝利し、社会主義政権を樹立することができない。また軍隊を不断に強化せずには帝国主義者の策動を粉砕し、社会

主義政権を守り固めていくこともできないのである。

先軍の原理のいま一つの本質的内容は、軍隊はすなわち自主的な人民だということである。

人民大衆は自らの真正な軍隊を持ってはじめて、国家・社会の主人としての自主的尊厳を輝かせ、幸福な生を営むことができるのである。

21. 先軍革命理論は何を明らかにしているのか？

先軍革命理論は、先軍の原理にもとづいて、革命と建設にかんする理論を全一的に体系化した、革命の主力にかんする理論、革命的軍人精神にかんする理論、社会主義強盛国家建設にかんする理論を展開している。

22. 革命の主力にかんする理論では何が明らかにされているのか？

先軍思想は、革命の主力にかんする理論で、革命の主力の本質と主力の規定要因、主力の変化発展の合法則性を解明し、現代の革命の主力は軍隊にほかならないということを明らかにし

ている。ここに軍隊を基本とする革命の主体にかんする新しい理論が展開されているのである。

23. 革命の主力の本質は何か？

革命の主力は革命と建設をおし進めるうえで中核的な地位を占め、主導的な役割を果たす社会的・政治的集団のことである。

革命運動を起こし、おし進める革命の主体は、党と領袖の正しい指導を受ける広範な人民大衆である。革命の主体の中で中核的な地位を占め、主導的な役割を果たす階級･階層、社会的集団がほかならぬ革命の主力である。

24. 革命の主力を規定する要因は何か？

革命の主力は、それが革命と建設で占める地位と役割によって規定される。いかに大きな階級や階層、社会的集団といえども、革命と建設で主導的な地位を占め決定的な役割を果たせないならば、革命の主力にはなれない。

革命の主力はまた、その革命性と組織性、戦闘力によって規定される。革命性と組織性、戦闘力の弱い階級や階層、社会的集団は、革命の主力

としての使命を果たせないのである。

25. 革命の主力を規定する決定的な要因は何か？

革命の主体のうちどの階級・階層、社会的集団が革命の主力になるかを規定するうえでの決定的要因は、卓越した領袖と革命的党の指導にある。

ある階級や階層、社会的集団が、高い革命性と組織性、戦闘力をそなえ革命運動で主導的な地位を占め決定的な役割を果たす力量に恵まれていても、卓越した領袖と革命的党の正しい指導を受けられなければ、革命の主力としての使命を全うできないのである。

26. 革命の主力はどのように変化発展するのか？

時代が発展し社会の階級関係が変化するなかで革命運動に占める主力の地位と役割には一定の変化が起こりうる。

革命運動が深まり発展していけば、革命の主体のなかでは、従前の主力にとって替わってよ

り強力な新しい主力が登場することもありうる。つまり、ある国で革命の主力をなしている階級や階層、社会的集団が、国情の異なる他の国でも同じく革命の主力になるとは必ずしも言えないのである。

革命の主力にかんする問題は、階級関係のみをもって解決できる問題ではない。科学技術が向上し社会が発展していくと階級関係も単一化の傾向をとり、また各階級・階層中の一定の人たちが新しい社会的集団をなして社会的運動を進めていくようになると、革命の主力は従前の階級・階層から他の一定の社会的集団へととって替わられることもありうるのである。

27. 現代における革命の主力はどの集団か？

先軍思想は、革命の主力問題を、チュチェ思想的な観点に立ち、時代の発展と変化した社会階級関係を見きわめたうえで、革命運動史上初めて「先軍後労」の思想をうちだし、軍隊を革命の中核部隊、主力としておし立てた。

28. 「先軍後労」とはどういうことか？

「先軍後労」は文字通り革命と建設において軍隊を労働者階級の前に立てる思想である。

「先軍後労」という語は、先軍思想によって始めて生み出されたものである。

従前の労働者階級の革命理論では、労働者階級を革命の主力と規定し、軍隊は労働者階級の階級的支配を実現する政治的な手段とみなされたのであり、世界の多くの国では労働者階級を主力として革命闘争と建設事業を進めることを常としていた。

しかし朝鮮では社会的環境や階級関係、それに労働者階級の境遇にも大きな変化が生じた。

先軍思想は、変化した時代的環境と現実的条件、革命の実践的経験を一般化して、軍隊を労働者階級の前に立て、革命の主力とすることで、革命理論を一段と発展させたのである。

29. 軍隊が革命の主力となる理由は何か？

軍隊が革命の主力となるのは、革命闘争と建設事業で軍隊が主導的な地位を占め、決定的な役割を果たすからである。さらに軍隊は、革命の

主体を構成する他のどの階級･階層、社会的集団よりも、革命性と組織性、戦闘力においてもっとも強力な社会的集団であるからである。

30. 軍隊が革命闘争と建設事業で主導的な地位を占めるのはなぜか？

軍隊が革命闘争と建設事業で主導的な地位を占めるのは、軍隊が革命の基本的な戦線を担当する革命隊伍だからである。

革命の主力は、革命の主体における中核勢力、基本的な部隊として、いきおい革命と建設の運命を決定づける革命の基本的な戦線、生命線を担当することになるのである。

31. 革命闘争と建設事業における生命線は何か？

人民大衆の自主性の実現をめざす革命闘争と建設事業の生命線は、反帝軍事戦線である。反帝軍事戦線は人民大衆の自主性の実現にじかにつながる革命の基本的な戦線である。

32. 反帝軍事戦線が革命の生命線となる理由は何か？

反帝軍事戦線が革命の生命線となるのは、それが帝国主義者のあらゆる反革命的暴力を粉砕して革命を勝利に導き、人民政権を樹立するうえで、また勝利した革命の獲得物を守るうえで基本となる戦線だからである。

またそれは、反帝軍事戦線が革命と建設の他の戦線における勝敗を決定づける鍵となるからである。帝国主義との決定的な力の対決の場である反帝軍事戦線で敗北すれば、革命と建設の他の戦線においても総崩れのうきめにあい、革命偉業そのものが挫折を余儀なくされるのである。

33. 軍隊が革命闘争と建設事業で占める主導的地位とはどのようなものか？

反帝軍事戦線を担当する軍隊の主導的地位は、国家･民族の運命、社会主義と革命の存亡に関わる責任のもっとも重い地位である。軍隊は帝国主義侵略軍とじかに対峙し、党と革命、国と人民の運命を銃で守る使命を帯びているのである。

反帝軍事戦線を担当する軍隊の主導的地位はまた、革命と建設で労働者階級をはじめ各階層の広範な人民大衆が占める地位を軍事的にしっかり支えるかなめの地位である。軍隊を抜きにして、労働者農民をはじめ広範な人民大衆は、革命と建設で当然の地位を占めることができないのである。

34. 軍隊が革命闘争と建設事業で占める決定的な役割とはどのようなものか？

軍隊は、革命闘争では反革命勢力を打破し、革命の勝利後は人民の新しい社会づくりとその防衛闘争で決定的な役割を果たす。

軍隊はまた、革命的気質と戦闘的気迫をもって、政治、経済、思想、文化などにわたる全般的社会主義建設の促進に決定的な役割を果たす。

35. 軍隊に備わる革命性とはどのようなものか？

朝鮮人民軍は、党と領袖、人民大衆の自主偉業の擁護を根本的な使命とし、党と領袖を生命を賭して擁護し党政策を徹底して貫き、人民大

衆の自主偉業の実現に向けて死をもいとわずにたたかう。

軍隊は誰よりも祖国を熱烈に愛し、社会主義を守ろうという精神が強く、革命の勝利を成就するためには、青春も生命も惜しみなく捧げることを誇りとしている。

36. 軍隊に備わる組織性とはどのようなものか？

組織性は革命の主力が備えるべき必須の特質の一つである。

朝鮮人民軍は、全軍が最高司令官を中心に一枚岩のように団結した一心同体をなし、最高司令官の命令指示のもと一糸乱れずに動き、すべての活動と生活が軍事規律・規範にのっとって正規化されている。

軍隊内における将兵相互の関係は単なる命令・服従の関係ではなく、戦場で血肉を分かち、同志のためとあらば生命も惜しみなく捧げる、崇高な革命戦友間の関係である。軍隊は社会のどの集団よりも集団主義精神が強く、隊内には自覚的な規律が支配しており、全隊伍が一つの

同志的集団をなしているのである。

37. 軍隊に備わる戦闘力の内容はどのようなものか？

軍隊はつねに緊張し、動員体制を崩すことなく、戦闘･政治訓練を通じて自らの戦闘力を不断に高めていく。

朝鮮人民軍は、どのような任務を与えられても、戦闘的気迫にみちて大胆に作戦し、頑強な攻撃戦をくりひろげ、せん滅的方法をもってそれをやり遂げている。

軍隊は社会主義建設でも、いかなる試練や困難もものともせず、強靭な意志をもって決死的にたたかい、無から有を作り出しながら大革新、大飛躍を遂げることを体質としている。

38. 先軍思想が深め発展させた革命の主体は何か？

先軍思想は、革命の主力は軍隊であるという独創的な見解に立って、革命の主体にかんするチュチェ思想の原理を継承し、これをいっそう深め発展させることで、革命の主体は領袖、党、

軍隊、人民の統一体だということを解明している。

39. 革命の主体が領袖、党、軍隊、人民の統一体だというのはどういうことか？

革命の主体が領袖、党、軍隊、人民の統一体だというのは、軍隊を中核とする人民大衆が党と領袖のまわりに組織的、思想的に、道徳･信義的に固く結束した統一体だということである。

40. 革命の主体における人民大衆の地位はどのようなものか？

革命の主体における人民大衆の地位は、革命の直接の担当者だということにある。

人民大衆は革命と建設の主人であり、自然を改造し社会を変革する決定的な勢力である。革命闘争と建設事業は人民大衆の自主性を実現するための、人民大衆自身による活動である。人民大衆不在の革命運動というものはありえないばかりか、人民大衆は革命の主体の基本的な構成部分をなすのである。

41. 革命の主体における軍隊の地位はどのようなものか？

革命の主体における軍隊の地位は、その中核勢力だということにある。

軍隊は反革命的暴力をことごとく撃破して真正な人民の社会制度をうち立て、革命の獲得物を守り、全般的社会主義建設を強力におし進める有力な勢力である。

歴史の主体である人民大衆も軍隊に依拠してはじめて、革命の主体としての地位を占め、役割をりっぱに果たしていけるのである。

42. 革命の主体における党と領袖の地位はどのようなものか？

革命の主体における党と領袖の地位は、その核であり中心だということにある。

革命と建設において、党は革命の参謀部であり、領袖は革命の最高脳髄である。党と領袖の正しい指導を得てはじめて人民大衆は革命の真の主人となり、軍隊は革命の主力部隊に鍛えられるのである。人民大衆と軍隊は、党と領袖の指導を得て意識化、組織化されるときにのみ、革命と

建設で主体としての地位を占め、役割を果たすことができるのである。

43. 革命の主体の本質的特性は何か？

革命の主体は、軍隊を中核勢力とし鑑として全人民が党と領袖のまわりに一つの思想・意志をもって固く結束した思想的純潔体である。

それはまた、領袖を指導の中心とし、軍隊が中核勢力となり鑑となって人民大衆が組織的に固く結合した統一体であり、さらには軍隊と人民が党と領袖のまわりに道徳・信義的に固く結束した統一体である。

44. 革命的軍人精神にかんする理論では、何が明らかにされているのか？

先軍思想は、革命的軍人精神にかんする理論において、現代におけるもっとも崇高な革命精神は軍隊が創造し発揚する革命的軍人精神であるとして、その本質と特性、ひいてはそれが革命と建設において占める地位と役割を全面的に解明している。

45. 革命的軍人精神とはどのようなものか？

革命的軍人精神とは、領袖決死擁護精神、決死貫徹精神、英雄的犠牲精神を基本とする軍隊の高潔な革命精神である。

46. 領袖決死擁護精神とはどのような精神か？

領袖決死擁護精神は領袖への絶対的な信頼心にもとづいて領袖の安全を生命を賭して守り、領袖の権威を擁護し、領袖の思想･路線を固守する精神である。

47. 領袖決死擁護精神はなぜ革命的軍人精神のもっとも重要な内容となるのか？

領袖が不在では、軍隊の存在もその強化発展も考えられず、したがって革命の勝利もありえない。それゆえに軍隊の最大の使命は領袖を決死擁護することにおかれるのである。

領袖決死擁護精神は、軍隊の第一の思想的・精神的特質であり、第一の生命である。領袖決死擁護精神を離れた革命的軍人精神というものは考えられない。つまり領袖決死擁護精神は革命

的軍人精神の核をなすのである。

48. 領袖決死擁護精神が革命的軍人精神の核をなすというのはどういうことか？

領袖決死擁護精神が革命的軍人精神の核をなすというのは、それが革命的軍人精神の根本思想・根本精神として、他のすべての思想的・精神的内容を規定し、発現過程を規定する精神だということである。

革命的軍人精神における決死貫徹精神と英雄的犠牲精神は、ほかならぬ領袖決死擁護精神に根ざして発現する精神であり、それゆえにこそもっとも崇高な闘争精神となるのである。

49. 決死貫徹精神とはどのような精神か？

決死貫徹精神とは、党と領袖が提示する思想と路線、命令指示をなによりも正しい、至上の命令として受けとめ、寸毫の狂いもなく無条件徹底的に貫く精神である。

50. 決死貫徹精神が革命的軍人精神の基本的な内容の一つとなるのはなぜか？

党と領袖の思想と意図は、革命軍隊の存在と発展の生命線であり、軍隊が自己の使命と本分を全うするうえでの唯一の指針である。

軍隊は党と領袖の思想と路線、命令指示を死活的な要請、絶対的な真理として受けとめ、それを貫くために自己のすべてを捧げてたたかう。党と領袖の命令指示を貫くうえで悲観と動揺、遅疑逡巡を許さず、いかなる困難に遭遇しても、生命を賭してたたかうことを無限の光栄とするのがほかならぬ革命軍隊である。

51. 英雄的犠牲精神とはどのようなものか？

英雄的犠牲精神は、党と領袖、祖国と人民のために自己のすべてを捧げてたたかう自己犠牲精神であり、その途上で偉勲を立て、飛躍と革新を起こす闘争精神である。

52. 英雄的犠牲精神が革命的軍人精神の基本的な内容の一つとなるのはなぜか？

革命軍隊は、人民大衆の自主偉業への献身を誓って銃を取った闘士たちの隊伍である。党と領袖、祖国と人民のため、革命の勝利のためとあ

らばわが身を惜しみなく捧げてたたかう無限の献身性、英雄的犠牲精神が欠落していては存在価値のないのが、ほかならぬ革命軍隊である。それがゆえに軍隊内には、党と領袖、祖国と人民のために英雄的にたたかおうという犠牲精神が横溢することになるのである。英雄的犠牲精神が革命的軍人精神の基本的内容の一つとなる理由はここにある。

53. 革命的軍人精神はどのようにして生み出されたのか？

革命的軍人精神は、1990年代後半期、朝鮮東部の安辺（アンビョン）青年発電所建設に参加した軍人建設者たちによって生み出された。

安辺青年発電所建設はたぐいまれな難工事であった。ソ連・東欧社会主義の挫折後、帝国主義者の極端な経済封鎖と相つぐ自然災害で、国家経済が大きな難関に逢着しているときのことで、工事の続行はもはや不可能と危ぶまれた。ところが工事を担当した軍人たちは、最高司令官決死擁護精神、最高司令官の命令指示決死貫徹精神、祖国と人民、同志のためとあらば生命をも

なげうつ英雄的犠牲精神を一貫して発揮し、ついに発電所の建設をなしとげたのであった。

金正日総書記は、かれら軍人たちが発揮した精神を「革命的軍人精神」であるとして大いにたたえ、全社会がかれらに積極的に見ならうよう呼びかけた。

54. 革命的軍人精神の特徴は何か？

革命的軍人精神の特徴は、軍人たちが党と領袖、祖国と革命のためとあらば青春も生命も惜しみなく捧げてたたかう決死断行の闘争精神であり、いかなる大敵も真っ向からたち向かって撃砕し、いかにきびしい困難や試練も果敢に突き抜けていく必勝不敗の革命精神である。

55. 革命的軍人精神が革命と建設に占める地位と役割はどのようなものか？

先軍思想は、革命的軍人精神は労働者階級の階級意識と革命精神の最高の表現であり、革命と建設をおし進める強力な思想的・精神的武器、基本的な推進力であるとして、それが時代と革命発展に占める地位と役割を明らかにしている。

56. 革命的軍人精神が労働者階級の階級意識と革命精神の最高の表現であるというのはどういうことか？

革命的軍人精神が労働者階級の階級意識と革命精神の最高の表現であるというのは、階級の敵とは限りない憎悪心をもって果敢にたたかい、自己の階級と人民、制度を熱烈に愛し、それに献身する労働者階級の思想的覚悟と意志が、革命的軍人精神に最高の高さで体現されているからである。

57. 革命的軍人精神が労働者階級の階級意識と革命精神の最高の表現だとされるのはなぜか？

革命的軍人精神が労働者階級の階級意識と革命精神の最高の表現だとされるのは、革命的軍人精神に労働者階級的原則性がもっとも強く脈打っているからである。

労働者階級の階級意識は、自らの階級的要求と利益を守り貫くことを本旨とする労働者階級的原則性に集中的に表現されているが、決死断行を特徴とする革命的軍人精神には、労働者階

級的原則にかんしてはいささかの妥協も譲歩もがえんじないという明確な労働者階級的原則性が体現されている。

革命的軍人精神にはまた、帝国主義と階級の敵への激しい敵愾心と憎悪、徹底的撃滅の精神がみなぎっている。

58. 革命的軍人精神が革命と建設をおし進める強力な思想的・精神的武器となるのはなぜか?

革命的軍人精神が革命と建設をおし進める強力な思想的•精神的武器となるのは、革命的軍人精神が人間を積極的に改造し、そうすることで、帝国主義とのたたかいおよび、国の富強繁栄と人民の幸福をはかる社会主義建設でつねに勝利のみをおさめるようにする革命的な精神だからである。

59. 革命的軍人精神はどうして人間改造事業の完成を支え、これを積極的におし進めるのか?

人間改造は革命の発展に先行して進めなけ

ればならない事業であり、時代の要請である。人間改造事業において基本となるのは、人びとを革命的な思想・精神で武装させることである。

革命的軍人精神は、党と領袖への忠実性をもっとも高く体現しており、これにもとづいて高度の集団主義精神と、強い組織性と規律性の精神、ゆるぎのない革命的原則性と反帝・階級闘争精神など革命家にとって必須の思想的・精神的風格を最上に具現している。

革命的軍人精神はまた、革命家の到達すべきもっとも崇高な道徳・信義的品格および人びとの身につけるべき文化的・情緒的風格を最高に具現している。

60. 革命的軍人精神が帝国主義との対決で最後の勝利をおさめる源泉となるのはなぜか。

帝国主義との対決は、力の対決、軍事的対決であると同時に思想と信念、意志の対決である。この対決で勝利するためには、もちろん強力な軍事力が不可欠ではあるが、それにもまして重要なのは思想的・精神的な力である。

革命的軍人精神は、軍隊と人民が決死の覚悟

と意志をもって反帝闘争に臨むようにする。帝国主義者は「力の万能」をうんぬんしながらも、内心では相手の近代的兵器よりも軍隊と人民の決死断行の精神力に恐れをいだいているのである。

革命的軍人精神はまた、軍隊と人民がいかなる大敵にたいしても正面からぶつかって撃砕する果敢な攻撃精神を発揮するようにする。

61. 革命的軍人精神が社会主義建設の強力な推進力となるのはなぜか？

人民大衆の自主性を実現する革命は、社会主義建設を通して発展し、完成する。

革命的軍人精神は、人びとを祖国の富強繁栄と人民の幸福をはかる社会主義建設に積極的に参加するようにし、かれらがいかなる敗北主義にも陥ることなく、立ちはだかる困難と試練を自力更生、刻苦奮闘の精神をもって克服し社会主義建設を飛躍的に発展させ、そのなかで偉勲を立てていくようにするのである。

62. 社会主義強盛国家建設にかんする理論では何が明らかにされているのか？

先軍思想は、社会主義強盛国家の本質とあり方、さらには社会主義強盛国家建設についての理論を全面的に明らかにしている。

63. 社会主義強盛国家の本質は何か？

社会主義強盛国家は、国力が強く、すべてが振興し、人民がなにものをも羨むことなく幸福に暮らす国である。言い換えれば、政治強国、軍事強国、経済強国の三つの目標を達成し、あらゆる分野で全面的な開花が遂げられていく国である。

64. 政治強国とはどのような国か？

政治強国は、政治的自主性を完全に実現し、団結の政治、愛国愛族の政治を具現して全社会の一心団結を果たし、社会的・政治的基盤をしっかりと固めた国のことである。

65. 社会主義強盛国家の建設で政治強国の建設が重要な問題となるのはなぜか？

社会主義的強盛国家の建設で政治強国の建設が重要な問題となるのは、政治が社会生活で決定的な意義を持つ分野だからである。政治強国の建設がなされてはじめて、社会的存在としての人間の生命であり、国と民族の生命である自主性の確固とした土台も築かれるのである。

また、政治の主導的役割に依拠することによってのみ、国防および経済･文化建設など社会主義の建設全般をとどこおりなくおし進めていくことができるからである。

66. 先軍思想にもとづく政治強国建設の内容はどのようなものか？

先軍思想は、軍事力を鼻にかけて傲慢に振る舞う帝国主義者を強力な国力をもって抑え、また、いかなる懐柔や威嚇にも動揺することなく、人民の要求と利益、自国の実状にかなった自主的な政治を実現していけるようにする。

67. 軍事強国とはどのような国か？

軍事強国とは、政治的･思想的にしっかり固められ、高度の軍事技術で装備された近代的な

軍隊を持ち、全軍に将兵一致の気風が確立し、軍政配合が適切になされた国、これに加えて全社会に軍民一致の気風がみなぎり、軍事重視が社会的風潮となった国、全人民武装化、全国要塞化が実現した難攻不落の国のことである。

68. 社会主義強盛国家の建設で軍事強国建設が重要な問題となるのはなぜか？

社会主義強盛国家の建設で軍事強国建設が重要な問題となるのは、帝国主義が地球上に存在する限り、社会主義諸国は常時帝国主義の軍事的脅威と挑戦を受けるからである。

他方、軍事強国の建設は、国力の全般的強化にとって不可欠の要求だからである。強力な軍事力に支えられないでは、安定した平和的な環境が望めず、したがって国力の充実をはかる国の全般的部門の発展に全力を集中することができないのである。

69. 先軍思想にもとづく軍事強国建設はどのような内容をもってなされるのか？

先軍思想は、軍人を革命的軍人精神で武装さ

せて全軍を政治的・思想的に、軍事技術的に無敵の強軍に鍛え上げるとともに、軍事活動を他のすべての活動に先行させ強力な国防工業を持つ鉄桶の防衛体制を全国的に確立するようにする。

70. 経済強国とはどのような国か？

経済強国とは、世界的ないかなる経済変動のなかでも自立的な経済的土台と現代的科学技術に依拠して経済が不断に発展し、人民の物質・文化生活水準が高度に保たれている国のことである。

71. 社会主義強盛国家の建設で経済強国建設が重要な問題となるのはなぜか？

社会主義強盛国家の建設で経済強国建設が重要な問題となるのは、経済が全般的国力の物質的な土台だからである。

経済の発展なしに人民の物質的需要をみたすことは不可能であり、したがって人民の幸福な文化生活も考えられない。それに強力な経済は、社会主義の経済的孤立と圧殺をはかる帝国

主義者の策動を無力化するのである。

72. 先軍思想にもとづく経済強国建設はどのような内容をもってなされるのか？

先軍思想は、軍隊をたんなる国防力としてではなく革命の主力としておし立て、その先導的役割を通して全般的社会主義建設を強力におし進めていくようにする。

それはまた、強力な国防工業を土台にして経済的・技術的潜在力を豊かに造成し、情報産業時代の要請に即した高い生産テンポを維持するようにする。

73. 先軍政治方式では何が明らかにされているのか？

先軍政治方式は、先軍政治の本質と、基礎および性格、先軍政治が社会主義政治のなかに占める地位と役割を明確にし、そのうえで先軍政治の指導原則と指導体系の全般的内容を明らかにしている。

74. 先軍政治の本質は何か？

先軍政治は、軍事を第一の国事とし、人民軍の革命的気質と戦闘力に依拠して祖国と革命、社会主義を防衛し、社会主義の全般的建設をおし進めていく革命指導方式である。

75. 軍事を第一の国事にするというのはどういうことか？

軍事を第一の国事にするというのは、軍事を政治の基本にすえ、これに最大の力を入れるということである。

このことは、先軍政治が社会主義政治で基本をどこにおき、どこへ力を集中すべきかということを明らかにしている。

76. 軍隊の革命的気質と戦闘力に依拠して祖国と革命、社会主義を防衛し、社会主義の全般的建設を強力におし進めるというのはどういうことか？

それは、軍隊を無敵必勝の革命武力に作り上げて国の安全と革命の獲得物を守り、軍隊を中核勢力・主力とする革命の主体をゆるぎなく固

め、社会主義建設の全般的活動を革命的、戦闘的にくりひろげていくということである。

これは、先軍政治が社会主義政治の目的を実現するうえでどのような方法に依拠しているかを明らかにしている。

77. 先軍政治の基礎は何か？

先軍政治の基礎は、金日成主席の銃重視の思想・路線である。

金正日総書記は、金日成主席の銃重視の思想・路線をさらに深めて、先軍政治方式にかんする理論を展開し、先軍政治を社会主義の基本的な政治方式として定立した。

78. 先軍政治の性格は何か？

先軍政治の性格は、それがもっとも原則的で正義にかなった反帝自主の政治であり、崇高な愛国愛族愛民の政治だということにある。

79. 先軍政治が反帝自主の政治となるわけは何か？

先軍政治が反帝自主の政治となるのは、先軍

政治が銃の優先・強化によって帝国主義の侵略・戦争策動を粉砕し、国際政治のなかで国の自主権行使を確固と支えるからである。

一方先軍政治は、国際的に反帝自主勢力を強化し、全世界の自主化偉業を強力におし進める働きをする。

80. 先軍政治が崇高な愛国愛族愛民の政治となるのはなぜか？

先軍政治が崇高な愛国愛族愛民の政治となるのは、それが銃を背景にして国家・民族の尊厳と栄誉、権威と偉容を高め、人民がなにものをも羨むことなく幸福に暮らす社会主義強盛国家を立ち上げるようにするからである。

81. 先軍政治は社会主義偉業の遂行上どのような地位を占めるのか？

先軍政治が社会主義偉業の遂行で占める地位は一口に言って、先軍政治が社会主義の政治方式で基本をなすということである。

先軍政治は、社会主義の運命および社会主義偉業遂行上の根本的要請によって生み出された

もので、その性格上他の政治方式の作用と役割を規制する地位におかれる。先軍政治は、社会主義政治のなかでつねに優先的地位を占め、根本にすえられるべき基本的な政治方式である。

82. 先軍政治が社会主義の基本的な政治方式となるのはなぜか？

先軍政治が社会主義の基本的な政治方式となるのは、それが社会主義の根本的な理念と原則を確実に実現させていくようにするからである。

社会主義の根本理念は人民大衆の自主性を実現することにあり、根本原則は労働者階級の階級的要求と志向を完全に具現することにある。先軍政治は、帝国主義の挑戦と侵略から社会主義を守ることで人民大衆の自主性の全面的実現を助け、いかなる情勢のもとでも労働者階級の階級的原則を守って社会主義偉業を完成へと導くのである。

先軍政治が社会主義の基本的な政治方式となるのはまた、それが社会主義偉業遂行の全過程で堅持される政治方式だからである。

社会主義偉業は、帝国主義との生死をわかつ

対決のなかで進められる創造と建設の行程である。先軍政治は、こうした社会主義偉業遂行の特性を踏まえて、強力な軍事力をもって、全般的な社会主義建設をしっかり支え、積極的におし進める戦略的政治方式である。

83. 先軍政治は他の政治方式とどのように関わっているのか？

社会主義の政治方式は、社会主義社会の本質的特性から、人民大衆への愛と信頼にもとづく政治である仁徳政治と、人民大衆の意思を集大成した社会主義的民主主義政治とからなる。

先軍政治は、この社会主義の政治方式をしっかりと支える前提である。先軍政治を離れては、社会主義社会そのものを維持できず、人民大衆へのいかなる愛と信頼も民主主義も砂上の楼閣にすぎなくなるのである。

仁徳政治と社会主義的民主主義政治を通して、先軍政治はりっぱに実現されていく。仁徳政治は人民大衆への愛と信頼の政治によって全社会の一心団結を強固にし、社会主義的民主主義は人民大衆の志向と要求をりっぱに具現させて

いくのである。

84. 先軍指導原則には何が明らかにされているのか？

先軍指導原則には、先軍政治方式の実現上持ち上がる原則的な問題が明示されている。先軍指導原則には、軍事先行の原則と軍隊主力の原則とがある。

85. 軍事先行とはどういうことか？

軍事先行とは、革命闘争と建設事業で軍事を他のすべての活動に先行させ、これに最大の力を入れるということである。

86. 軍事先行原則の内容はどのようなものか？

軍事先行の原則には二通りの基本的な内容がある。

一つは軍事に最大の力を入れることであり、いま一つは革命闘争と建設事業で持ち上がるすべての問題を、軍事に従属させて解決していくことである。

87. 軍事に最大の力を入れる理由は何か？

革命と建設における軍事問題は、人民大衆の自主性、国家･民族の自主性問題と直結するきわめて重大な問題である。軍事をおろそかにしては革命の勝利は考えられず、勝利した革命の獲得物を守ることも国家・民族の運命をゆるぎなく支えることもできない。したがって、革命闘争と建設事業にたいする党の指導では、軍事を基本にすえ、そこに最大の力を入れるべきである。

88. 革命闘争と建設事業におけるすべての問題を軍事に従属させて解決していかなければならないのはなぜか？

自然改造、社会改造、人間改造をはかる革命闘争と建設事業においては緊急に解決すべき重大問題が数限りなく持ち上がるが、その解決の成否は軍事問題解決の先行いかんに大きくかかっている。したがって、革命闘争と建設事業では、すべての問題を、軍事重視の立場から、軍事力の先行強化原則を堅持しつつ解決していかなければならないのである。

89. 軍事先行の原則を具現するためにはどうすべきか？

軍事先行の原則を具現するためにはまず、軍隊を無敵必勝の革命武力に仕上げる一方、国防工業の優先的発展をはからなければならない。同時に全社会に銃重視・軍事重視の気風を確立することもまた重要な問題となる。

90. 軍隊を主力とするというのはどういうことか？

軍隊を主力とするというのは、革命闘争と建設事業における基本的な推進勢力は軍隊であるとみなし、軍隊を先頭に立て、その力に依拠して他のすべての活動を進めるということである。

91. 軍隊を主力とする原則はどのような内容からなっているのか？

軍隊を主力とする原則の基本的な内容は二つである。

一つは、革命闘争と建設事業の全分野で軍隊がもっとも有力な基本の勢力であるとみなし、これにしっかり依拠することであり、いま一つ

は、軍隊を先頭に立てながら軍民の団結した力によって革命闘争と建設事業を進めていくということである。

92. なぜ軍隊をもっとも有力な基本の勢力とみなし、これにしっかり依拠しなければならないのか？

軍隊は、社会のどの階級・階層や社会的集団よりも革命性と組織性、戦闘力が最強の政治勢力であり、反帝軍事戦線はもとより、経済建設と文化建設でも飛躍と革新を生む主力である。したがって革命闘争と建設事業の全分野で軍隊を柱とし、これにしっかり依拠しないでは勝利をおさめることができないのである。

93. なぜ軍隊を先頭に立てながらも、軍民の団結した力で革命闘争と建設事業をおし進めていかなければならないのか？

軍隊を主力にするというのは、決して軍隊にのみ依拠するということではない。軍隊は人民大衆の先頭に立って進撃路を開き、人民大衆を英雄的なたたかいへと奮い起こす先鋒、突撃隊

である。

軍隊を先頭とする軍民一致を実現して全人民を奮い起こすならば革命闘争と建設事業は成功裏に進捗するのである。

94. 軍民一致とは何か？

軍民一致とは、革命的軍人精神にもとづく軍民の思想と闘争気風の一致である。

95. 軍隊主力の原則を具現するためにはどうすべきか？

軍隊主力の原則を具現するためには、軍隊を革命の主力としての気質と風貌をそなえた革命隊伍に作り上げるとともに、社会主義建設に積極的に参加させてすぐれた模範を示すようにし、ひいては軍民の思想と闘争気風の一致を確立することである。

96. 先軍指導体系では何が明らかにされているのか？

先軍思想は、先軍の原理を具現した先軍指導体系にかんする思想・理論をうち出している。

先軍指導体系には、最高司令官の唯一的指導体系と国防優先の国家政治体系とがある。

97. 最高司令官の唯一的指導体系とはどういうものか？

最高司令官の唯一的指導体系とは、革命闘争と建設事業における一切の問題を最高司令官の思想･意図に沿って解決し、全党、全軍、全民が最高司令官の唯一的指導のもとで一つの有機体のように動き、最高司令官の意図と命令指示を無条件受け入れ貫いていくようにする指導体系である。

98. 国防優先の国家政治体系とはどういうものか？

国防優先の国家政治体系とは、軍事を国家政治の第一の重大事とし、これにすべてを従わせる原則に立って、国防委員会を中核とする国家機構を組織し、国の社会生活全般を指揮する国家機構・国家管理体系である。

99. 先軍思想の正しさと生命力はどこにあるのか？

①　朝鮮人民が、アメリカとその追随勢力の侵略・戦争策動を粉砕し、国と民族、社会主義をりっぱに守り通しているところにある。

朝鮮人民が半世紀を越えるアメリカとの対決で国と民族、社会主義を立派に守り輝かせてきたのは、ほかならぬ先軍思想のたまものである。

②　革命隊伍の結束と全社会の一心団結が一段と強化されたところにある。

朝鮮の軍隊と人民が同志的関係でいちだんと固く結ばれ、朝鮮革命の政治的・思想的威力がかつてなく高まったのは、全社会を先軍思想で一色化するたたかいのなかで生み出されたすぐれた結実である。

③　社会主義強盛国家建設のたたかいで新たな転換が起きたところにある。

人民軍を先頭とする全人民の一心同体にもとづき、社会主義強盛国家建設の活路を開いたのは、先軍の旗を高くかかげてたたかうならば、強盛国家建設の雄大な目標は必ず実現すること

を実証している。

④　祖国統一の画期的な局面が開かれたところにある。

2000 年と 2007 年の北南両首脳の歴史的な平壌（ピョンヤン）対面によって、6.15 北南共同宣言と 10.4 宣言が採択され、「わが民族同士」の崇高な理念のもと祖国統一の画期的な局面が開かれたことは、先軍思想、先軍政治の威力がもたらしたいま一つのすばらしい結実である。

⑤　朝鮮の対外的権威が一段と高まり、自主の道をめざす世界進歩的人民の熱意が非常な高まりを見せているところにある。

先軍の旗をかかげて進む朝鮮の不敗の力は世界が公認しているところであり、近年、朝鮮を敵対視していた西欧諸国をはじめ多くの国が続々と朝鮮と外交関係を結んだ。これは国際的な対朝鮮関係における大きな転換を意味する。先軍思想、先軍政治は、帝国主義侵略勢力に打撃を与え世界の反帝自主勢力を鼓舞することで人類の自主偉業遂行に大きく寄与している。

100. 先軍思想の歴史的地位はどのようなものか？

先軍思想は、チュチェ思想にもとづく先軍思想の旗のもとに先軍時代を開拓し隆盛一路に導く現時代の偉大な革命的旗じるしである。

先軍思想はまた、どのような条件や環境のもとでも人民大衆の自主偉業を勝利のうちに前進させる革命理論と戦略戦術をさし示す完成された革命思想である。

それはさらに、帝国主義との生死を賭けた対決のなかで社会主義を守り、強盛国家を建設するうえで持ち上がるすべての理論的・実践的問題に完璧な解答を与える革命思想である。

先軍思想問答

出版：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社

発行：チュチェ101(2012)年3月30日

ㄱ－2835025

E-mail: flph@star-co.net.kp
http://www.naenara.com.kp

朝鮮・平壌
チュチェ101(2012)

ISBN 978-9946-0-0827-1